

## Chapter 3

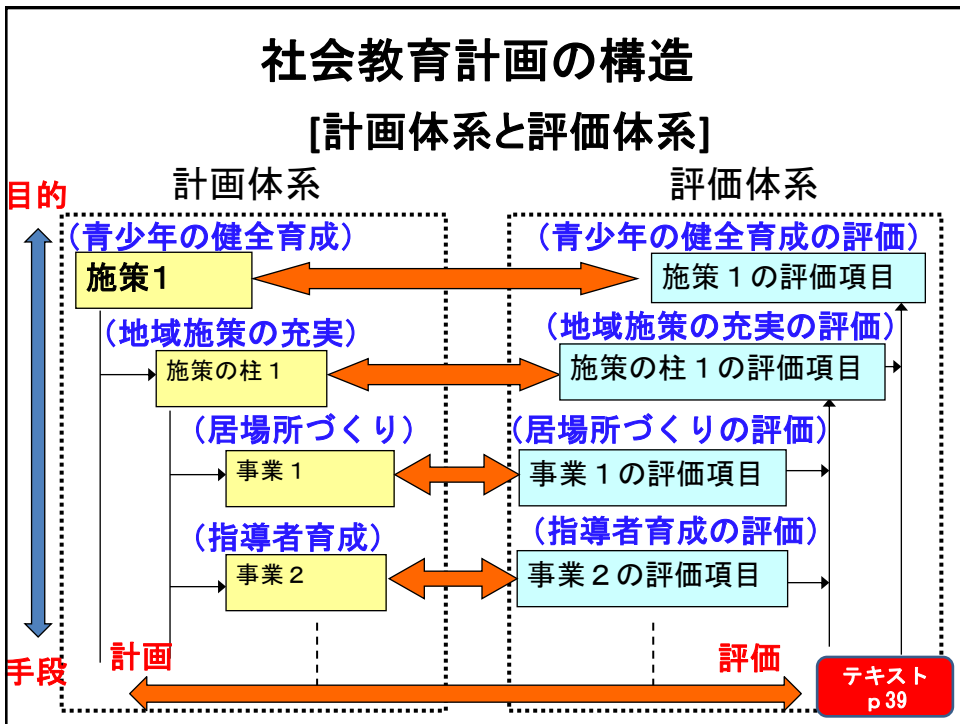
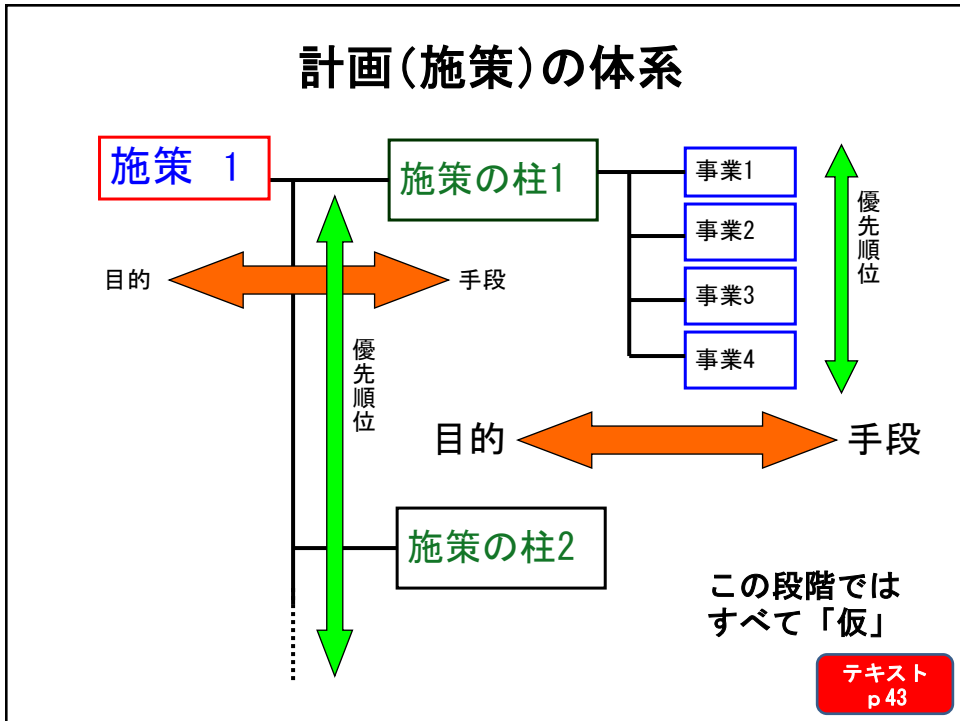
# 社会教育計画における評価指標 設定の留意点 ～事業評価フロー図の作成～

東京都教育庁地域支援部生涯学習課  
稲葉 隆

[確認]

社会教育計画の構造

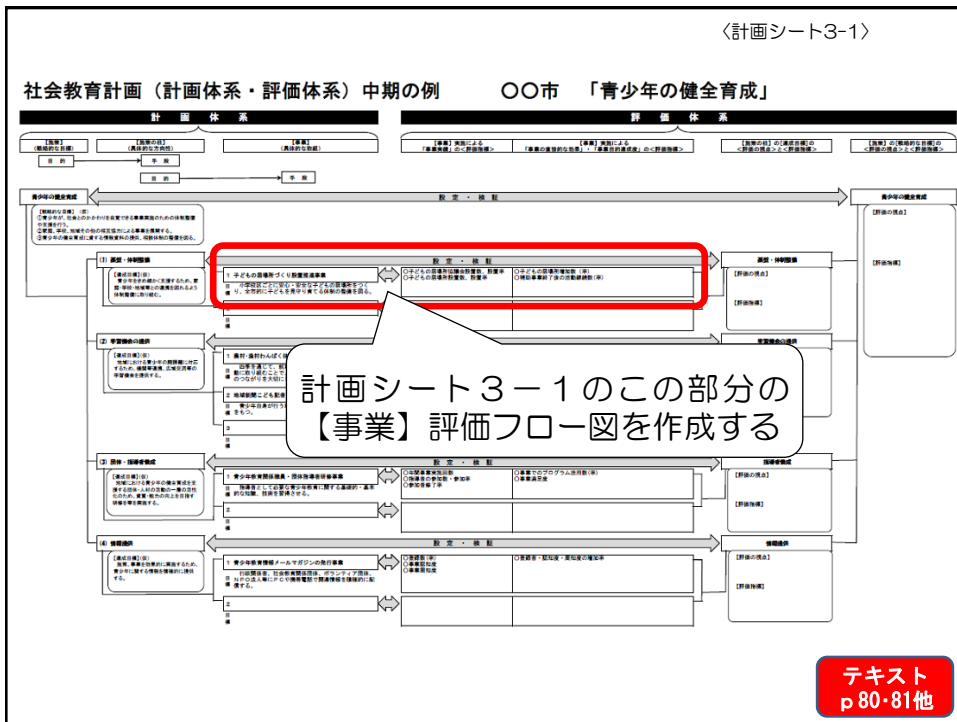
テキスト  
p 39～45

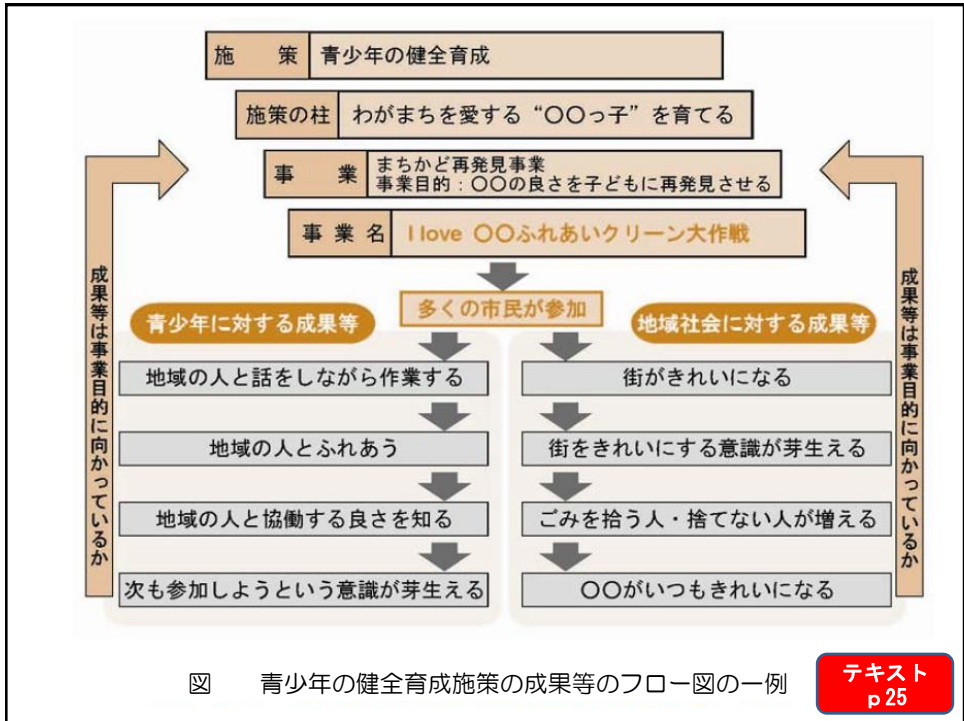
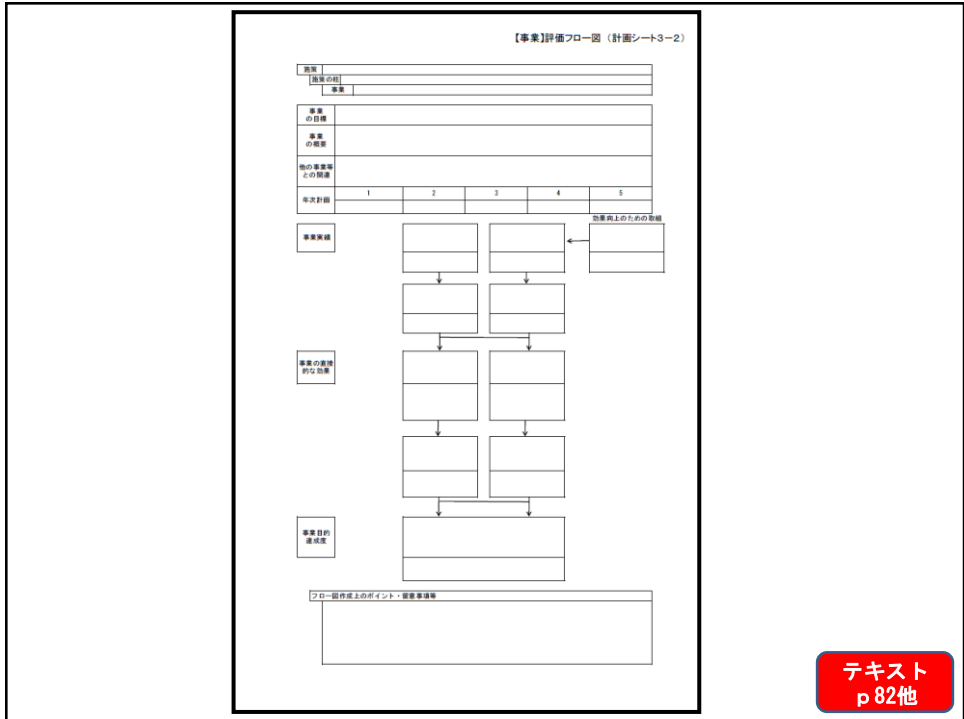


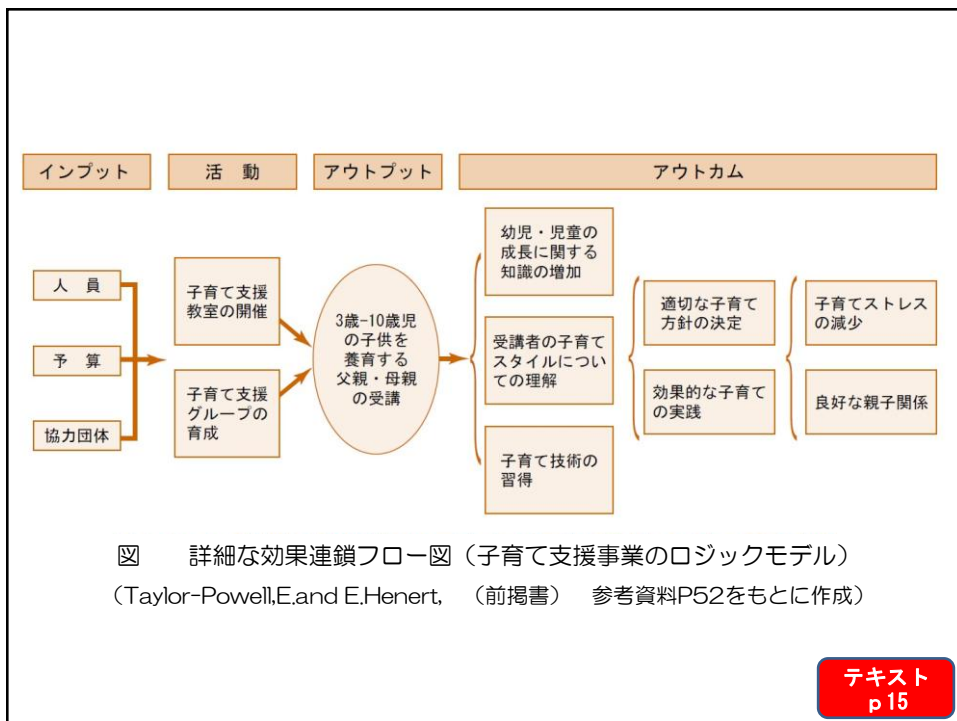
# (1) 事業評価フロー図

## ① 事業評価フロー図とは

テキスト  
p 24~25







## (1) 事業評価フロー図

### ② フロー図作成と事業の充実の関係

テキスト  
p 24~25

## フロー図作成と事業充実の関係

事業の主旨から

施策の柱や施策のねらいに向かって、

成果や効果を順を追って確認する作業



事業の質的充実につながる

テキスト  
p 24~25

(1) 事業評価フロー図

③ フロー図作成と事業の及ぶ範囲の関係

テキスト  
p 26

例)「青少年の健全育成」を目的に  
ジュニアリーダー養成に取り組む場合

- ・ジュニアリーダー養成の直接的効果  
→参加者に限定



- ・すべての青少年に広がっていく事業も構想  
→「青少年の健全育成」という大きな目的  
に向かう計画づくりとなる

テキスト  
p.26

例)人材養成の研修事業の場合

→単に研修会を実施するだけでは活発な活動は望めない。



- ・事業実施後:活動等への支援の事業化
- ・事業実施後:他施設等との役割分担・連携

テキスト  
p.26

## フロー図作成の事業の及ぶ範囲の関係

個々の事業の及ぶ範囲(限界)を  
把握できる

課題に対していくつかの事業の束で  
向かうことの重要性を理解させてくれる



社会教育行政の領域(責任範囲・守備範囲)  
を把握できる

テキスト  
p 26

## (2) 評価指標の洗い出しの重要性

### ① 評価指標項目の洗い出しの具体的手順例

テキスト  
p 26~27



フロー図の作成で各事業の評価指標を考える



どんどん挙げてメモする

- レベル、精度、測定可能性など問わない
- ランダムに思いつくまま
- 自由な発想
- 質より量を重視

テキスト  
p 26~27

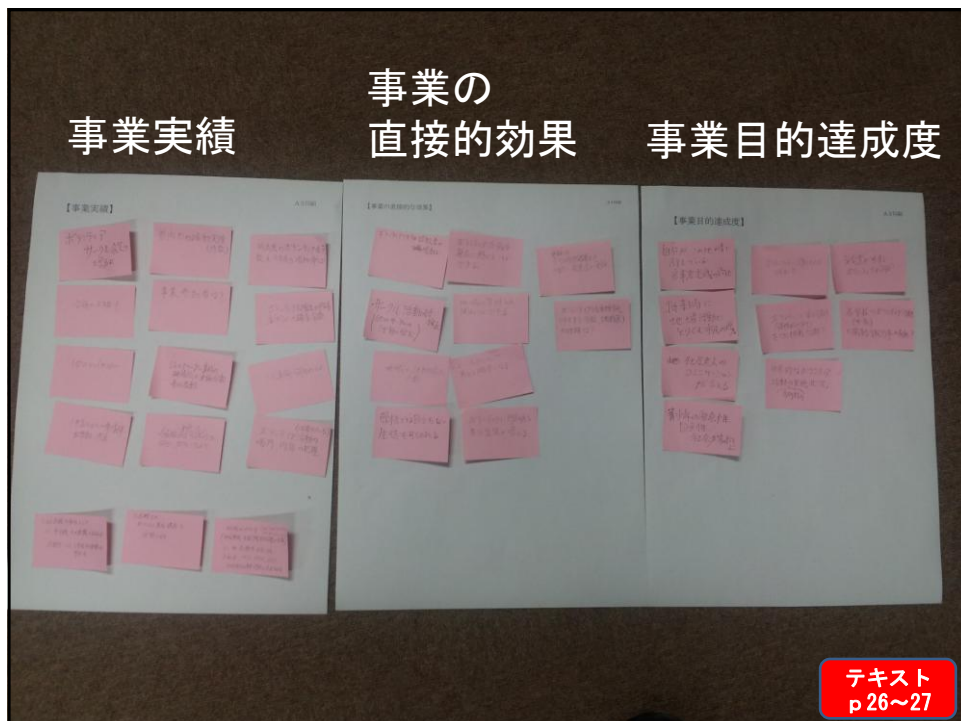


テキスト  
p 26~27

## (2) 評価指標の洗い出しの重要性

### ② 評価指標項目のふるい分けの具体的手順例

テキスト  
p 26~27



## 評価指標洗い出し一覧(一部)

事業	事業実績	事業の直接的な効果	事業目的達成度	【施策の柱】の評価の視点
①	サポーターリーダーの養成数	研修参加者の満足度	研修内容を生かした対応件数	
	サポーターリーダーの参加率	研修参加者の理解度	研修内容を生かした対応件数	
②	研修の実施回数	サポーターリーダーの配置数	研修参加者が新たに育成したリーダー数	
	研修への参加者数	PTAの重要性を理解した人数	参加者がPTAのない学校に働きかけ、新たに立ち上げた数	
③	実施回数	単位PTA等で報告会等を実施した割合	PTA活動に満足した保護者割合	
	参加者数	参加した保護者等の満足度	保護者等がわが子への関わり方を見直した人数	
④	実施回数	自らの団体の役割を認識した人数	PTA等で新しい取組を実施した団体数	
	参加者数	研修内容の理解度	相談により保護者等の悩みが減少した率	
		受講後、相談の方法や内容の改善に取り組んだ相談員数	リピーター数	

テキスト  
p 56・57

## 用語の説明

### 《事業実績》

事業の実施や活動の状況とその結果にかかわる内容で、いわゆる事業のアウトプット、事業の結果

### 《事業の直接的効果》

事業実績によって直接的に生じる事業の成果、アウトカムの中で、個々の事業の目的達成の初期的な成果を示すもの

### 《事業目的達成度》

「事業の直接的な効果」から期待される【施策の柱】の段階の事業の達成度のアウトカム

### (3) フロー図作成の留意点

テキスト  
p 27

### フロー図作成の留意点

#### ◆「目的」「目標」「手段」の関係を理解する

「目的」…達成したい姿(抽象的)

例)家庭の教育力の向上、子どもの生活習慣の確立

「目標」…達成したい状態(具体的)

例)5歳児が毎朝朝食を食べる率、小学生が朝8時前に起きる率

「手段」…目的・目標の達成に向けた具体的な取組

例)早寝・早起き・朝ごはん啓発パンフレットの配布、小学校の入学説明会時に保護者対象に、生活リズムに関する学習機会の提供

テキスト  
p 27

## フロー図作成の留意点

- ◆「目的」「目標」「手段」の関係を理解する
- ◆《対象》《時間》《変容》を設定する  
誰(どこ)が、いつの時点で(いつまでも)、  
どうなっているか(変化しているか)、を  
明確に示す。
- ◆平易な言葉で、簡潔に示す  
住民や他部局職員、あるいは地域の団体  
とも、目標を共感できたり、共有できたり  
する表現や指標を用いる。

テキスト  
p 27